

## 令和5年度 地域情報化アドバイザープロフィール

ふりがな	ふるや ひろし		
氏名	古屋 弘		
所属・役職	(株)大林組 技術研究所 上級主席技師 buildingSMART Japan 理事		
活動拠点	東京都（本社および技術研究所）		
略歴	<p>1983年(株)大林組入社 地盤関連の技術支援，現場（地下鉄）を経て，1997年より本社土木技術本部勤務。 2010年より技術研究所勤務。 現在に至る。 前（公社）地盤工学会副会長。 技術士（建設部門），工学博士，熊本大学客員教授，ISARC ボードメンバー</p>		
地域情報化の 専門分野・技術	<p>建設分野におけるICTの活用に関する技術開発 ネットワークを含む通信技術 建設ロボット（遠隔操縦／無人化／自律運転など） GNSSの活用</p>		
専門分野	5G 防災 スマートシティ		
自治体向けメッセージ	<p>単純なコンパクトシティの推進には反対です。 少子化，高齢化に向けた社会インフラの見直しは必須ですが，くらしやすさを基本として，それを実現するためのICT導入をまず考える必要があります。</p>		
関連サイト	<a href="https://www.obayashi.co.jp/">https://www.obayashi.co.jp/</a>		
地域情報化に関する実績	これまでの経験業務・研究活動	<p>地盤関連の技術支援，現場（地下鉄）を経て，1997年よりGNSS・データベースを用いた施工管理システム，1998年より加速度応答を用いたリアルタイム施工管理技術を開発。 ICTの建設分野への適用，および建設ロボットの開発に従事。 2010年より技術研究所勤務。3Dプロダクトモデルの活用の研究とともに建設ロボットおよびICTの活用と現場実装に関する研究開発に従事。 GNSSを用いた施工管理システム，加速度センサを用いた締固め管理システム，ダムコンクリート締固め管理システム等を開発 2001年国土技術開発賞 優秀賞，2009年・2015年ダム工学会技術開発賞，2018年土木学会技術開発賞などを受賞</p>	
	これまでに 関与した地域情報化に関するプロジェクト	<p>社会インフラ建設における品質管理の合理化と高度化を目的とし，ネットワーク（クラウドサービスも含む）を用いた施工管理システムを開発し実工事に多数適用。1999年より上記のシステムを構築導入後，2017年より5G実証実験に参加。重機の遠隔操縦の高度化を実現。</p>	

